







b (その四)

工場又は事業場の名称	興亜硝子株式会社 市川工場
------------	------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成22年度以前	平成27年度	令和4年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>(1) 計画年度(令和4年度)VOC排出量の削減</p> <p>① 昨年度の塗料の使用量は、対基準年度(160t)に対して実績使用量は129 tでした。令和4年度計画(200t)に対しては、計画達成となりました。</p> <p>② VOC排出量につきましては、令和4年度計画(90t)に対して、実績(86t)で計画を達成することができました。</p>
<p>(2) 原単位指標でのVOC削減管理：(VOC排出量/塗装通過本数)</p> <p>令和4年度の原単位指標では、計画10%削減に対して、削減32%で達成することが出来ました。</p> <p>水性塗料での塗装を本格稼働しており、有機塗料使用量を削減しています。</p> <p>また、塗装ガン設定での塗料吸着効率の向上、塗料余材の削減も含めVOCの削減に貢献しております。</p>

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。







(その四)

工場又は事業場の名称	タカラスタンダード株式会社 関東第一工場
------------	-------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

異物不良対策で洗浄・清掃の徹底を継続していること、生産数の増加により、

---

段取替えが増えたことで排出量が増加した。

---

生産数の増加に伴い排出量は増加基調ではあるが、使用量は抑えられているので、

---

効率よく運用できるように計画し、排出量の削減に努める。

---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---



---

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。





(その四)

工場又は事業場の名称	タカラスタンダード株式会社 関東第二工場
------------	-------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

色替え時のタンク洗浄に揮発性有機化合物を使用しているが、令和3年度は
洗浄回数を減らすことで使用量削減に取り組んだ。
しかし、洗浄回数を減らしたことで汚れが固着して落ち切らない弊害が出たため、
令和4年度は再洗浄が増えてしまった。
最適な洗浄タイミングを模索して、使用量削減に取り組む。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	信和産業株式会社 本社工場
------------	---------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。)	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。)	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。)
<input checked="checked" type="radio"/> C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

VOC処理装置の削減率良好。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	住友大阪セメント株式会社 新材料事業部 市川事業所
------------	------------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
2	1	2	2	5	2				

その他 (19、29、39、49、59、99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

・令和2年より、洗浄当たりの揮発性有機化合物の使用原単位削減および排出量削減を継続しております。
・洗浄処理後は速やかに揮発性有機化合物を密閉容器に戻し、不要に排出しないよう努めました。
・スクラバーを用い、揮発性有機化合物が外部へ排出しないようにしました。

(その四)

工場又は事業場の名称	住友大阪セメント株式会社 新材料事業部 市川事業所
------------	------------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

使用量実績値は計画より少ない結果となりましたが、生産数量が引き続き多く削減が困難な状況です。
洗浄当たり揮発性有機化合物の使用原単位削減を継続しておりますが、今年度も生産数量が維持される見込みで、更なる使用量の削減を検討する必要があると考えます。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社日商グラビア
------------	------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策


備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。





(その四)

工場又は事業場の名称	日鉄鋼板株式会社 東日本製造所 市川地区
------------	-------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある)。	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある)。	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある)。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

ステンレス箔生産設備の一つである脱脂洗浄施設(脱脂クリーニングライン)において溶剤(ジクロロメタン)を使用している。
2017年6月溶剤回収装置の活性炭エレメントを劣化更新して以降、これまでのところ高い溶剤回収率を維持できておりVOC排出量目標を達成できている。
2021年度は溶剤回収装置の活性炭エレメントが劣化し溶剤(ジクロロメタン)回収率が低下し始めていると推定しています。活性炭エレメントの劣化更新について予算化含め計画推進致します。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社日立産機システム 習志野事業所
------------	------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1)の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせ実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策1	対策2	対策3	対策4	対策5	対策6	対策7	対策8	対策9	対策10
1   1	1   2	2   2	2   9	9   4	9   9	9   9	   	   	   

その他 (19、29、39、49、59、99) を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記載すること。

対策4について 塗料調合時のビニール袋保護による容器の洗浄回数低減化を行いました。
対策6について ワニス・溶剤を多量に使用する製品の製造を終了しました。
対策7について 塗装吊り具の鉤にフッ素コート保護を実施し洗浄シンナー削減を行いました。

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社日立産機システム 習志野事業所
------------	------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
○A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社パールイデア パールデポ関東流通センター
------------	-----------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	2 1	2 2	2 3	2 9	3 3	5 2	9 1	9 4	

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<p>・コロナ禍の影響により生産量が減少し塗装量も比例して減少。塗装を極力制限し現状にて出荷することで塗料の使用量の減少、フタの開放時間を減少させた。</p>
<p>・エコラッカー・エコシンナーの使用比率の増大、有害物質の排出を抑制。</p> <p>労働安全衛生法にも準拠する作業環境を整えている。VOCの排出量はなかなか削減することが困難だが、PRTR物質を中心に特に有害と考えられる物質については大幅に削減効果を得ている。</p>
<p>・海外生産品分を、製品化することにより出荷が可能になり塗装を最小限に抑え塗料・シンナーの使用を削減。</p>
<p>・同系色の調達により、塗膜の薄化、塗料・溶剤の地容量を削減。</p>
<p>・返却時のマネキンをそのまま使用することにより、無塗装化を多くした。</p>
<p> </p>
<p> </p>

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社パールイデア パールデポ関東流通センター
------------	-----------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策


備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	京成自動車工業株式会社
------------	-------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----
-----

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。





(その四)

工場又は事業場の名称	東邦シートフレーム株式会社 八千代工場
------------	------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。○	削減目標を達成できた。○	計画年度の目標を達成できた。○
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。○	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。○	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。○
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。○	削減目標の達成に困難な課題がある。○	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。○

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策


備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。







(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社 竹中製作所 本社工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。



(その四)

工場又は事業場の名称	アズマプレコート株式会社 市川工場
------------	----------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
○A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
---

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。





(その四)

工場又は事業場の名称	神東塗料株式会社 千葉事業所
------------	-------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

VOC使用量に対する排出量の割合は変わっていないので、溶剤系塗料の生産量の増減によって、VOC排出量の変動する。
VOCを使用しない粉体塗料や水系塗料の生産比率を高めることが、VOCの使用量削減につながるので、会社として今後さらにVOCフリーの塗料の生産比率を高めるよう努力する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 高浜油槽所
------------	---------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
3 1	4 9								

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策2：屋外タンク貯蔵所の塗装色をシルバー色から白色に変更し呼吸吐量を削減させる。



(その三)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場
------------	--------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	3 2	4 9	5 1	5 2	4 9	3 1	5 2	3 9	

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1 : *ベンゼンの使用を廃止した。
対策 2 : *蒸留装置のアフターコンデンサーにコールドトラップを2基増設しVOCを効率よく補足できるようにした 蒸留装置#2300のコールドトラップの位置を変更した。蒸留装置#3400のアフターコンデンサーを新設した 3系クーラー装置全体の負荷の見直し、負荷の分散を行った。
対策 3 : 屋外タンクにベーパーリターン配管を設置した。TK-622、TK-623タンクの遮温塗装を行った。
対策 4 : 屋外タンクのブリーザーバルブ及びエステル中和釜のベントから排出されるVOCを吸着除去するため、 遊休品のPSAを再稼働した。
対策 5 : アルデヒド製造時のワガス対策としてデッドタイプ式吸収塔を設置した。
対策 6 : 屋外タンクにベーパーリターン配管を設置した。
対策 7 : H25年度、廃液ドラムに局所排気ダクトを設置した。
対策 8 : H25年度、各種スクラバー内の封水pHを11以上に管理した。
対策 9 : H26年度、PSA稼働テスト実施(継続)、キパーブリーザーを一部設置した。 H27年度、PSA洗浄テスト実施した。 H28年度、キパーブリーザー3基設置(TK-15・604・611)
対策 2 : H27年度、夏場のタンク散水を実施している。
対策 9 : PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。
対策 1 : H29年度、トルエンの販売を中止した。
対策 1 : 酢酸-n-ヘキシルの生産を中止した。
対策 2 : R02年度、夏場のタンク散水を2基⇒3基(キリンタンク1基追加)に変更(未実施で中止)。

(その四)

工場又は事業場の名称	東洋合成工業株式会社 市川工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>*基準年度に対して30%削減するという目標については、余裕をもって達成することができた。</p> <p>22年度は生産量が増えた為、排出等の量が19,000kgと計画値を達成することが出来なかった。</p> <p>しかし、23年度は22年度と生産量はほぼ同じだったが、ペーパーリターン配管付屋外タンクの使用頻度が増えた為、排出量を抑制することができた。</p> <p>*ペーパーリターン配管付屋外タンクの使用率                      25年度：71%      26年度：88%      27年度：78%</p> <p>*使用量は計画年度とほぼ同等の量を取り扱ったが、取り扱い品目数で1.1倍、さらに揮発性の高いメタノール、アセトンに関しては1.5倍近く増えているので充填作業の増加及び排出量の増加が考えられる。</p> <p>*対策：①屋外ドラム充填施設に局所排気装置の設置②PSA装置の脱臭液の変更を計画している。</p> <p>*H26年度、引き続きPSA装置の脱臭液変更を計画、その他一部の屋外タンクにキパーブリーザーを設置予定。</p> <p>*H26年度PSA装置テスト実施、今季継続テスト中。キパーブリーザー設置中(約半数)。またH26年度は計画値の18,000kgを達成することができなかったのは、生産量が増加したためである。</p> <p>*H27年度、PSA洗浄テスト実施し、効果を確認した。前年報告した計画値の算出に不備があり、修正。</p> <p>*H28年度、夏場のタンク散水を実施しております。キパーブリーザーを3基設置した。</p> <p>*H29年度、PSAの真空ポンプの更新、シリカゲル、活性炭の更新をした。</p> <p>*H30年度、トルエンの販売を中止した。</p> <p>H30年度、排出等の量が15,000kgに低減している理由は、MEK関連の生産量が24%減少した為である。</p>
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場
------------	-------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせる場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策10
2 1	2 2	5 6							

その他（19, 29, 39, 49, 59, 99）を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

対策 1
塗料、シンナーのフタ閉め、漏れ防止による溶剤管理の徹底
対策 2
製品品質安定化による塗料使用量の低減実施
対策 3
蓄熱式除去装置の安定運用

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社淀川製鋼所 市川工場
------------	-------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成24年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

新型コロナウイルス感染症も法位置づけが「5類」に移行し、国内の経済活動が活発になる中、原材料やエネルギー価格高騰による製品価格改定の受注に与える影響が懸念される。塗揮発性有機化合物を含む塗料や溶剤を使用する塗装鋼板及び処理塗布めっき製品などに生産量の増減があると予想されることから、今後の揮発性有機化合物の発生量は不透明であるが、揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策を着実に実施し、発生量を抑える。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。